



麻しん撲滅に向けて予防接種を呼び掛けるエムゼロの錦代表(左)と朴さん。22日、鳥取市興南町の鳥取南中

予防接種が大切

はしか撲滅へ鳥大生講演

鳥取南中

日本の若者に流行し社会問題にもなった麻しん(はしか)を撲滅しようと、麻しん対策に取り組む全国的な学生団体「M-zero(エムゼロ)」に所属する鳥取大学医学部の学生が二十二日、鳥取市興南町の鳥取南中学校で講演し、予防接種の大切さを訴えた。同

じ若者の目線で、はしかの恐ろしさを伝えた「と初めて学校現場に出向き、全国でも先進的でユニークな健康教育に取り組んだ。エムゼロは、学生による麻しん排除プロジェクトの略。全国の医大生らが集まり昨年六月に発足した。鳥大医学部医学科六年の錦信

吾さん(二匹)が代表を務め、約三十人のメンバーが各地で二〇一二年の麻しん排除を目標にした調査や普及啓発活動を展開している。今回の出前授業は、同中の田総朋子養護教諭から依頼を受けて開催。まだ予防接種を受けていない一、二年生の約七十人が参加した。

鳥大医学部医学科五年の朴大昊さん(二匹)が講師となり、初期症状や感染経路、合併症の怖さなどについて説明。「はしかは感染力が強く、すれ違っただけでもうつる病気だが、予防ワクチンを二回接種すれば防げる。予防接種は自分のためだけでなく、家族や社会、世界のために必要」と接種を呼び掛けた。県によると、県内の年代別予防接種率は昨年九月末現在、就学前の年長児(第二期) 57

・5%▽中一(第三期) 56・9%▽高三(第四期) 49・1%。昨年度から国の五年間の時限措置で第三、四期も無料です。予防接種が受けられるが、まだ接種が進んでいないという。県健康政策課の坂口千代副主幹は「若い世代の予防接種への普及啓発になる」とエムゼロの活動に期待を寄せ、錦代表も「依頼があればほとんどん学校現場に出掛けていきたい」と話していた。